

乗円寺 寺報

2026年 3月

春のお彼岸号

寺報から訊く 寺報No49

年明けから今年は雪が多く降りました。お寺の屋根雪やお墓の雪も、ようやくなくなりました。雪かきをしていると、良い運動になりますね。

ただ、「今日は頑張ったな」とおやつを食べたり、雪が降っているからと、週1回のランニングをおろそかにしてしまうのは、私の大きな課題です。自分に弱い人間ですが、47歳になりましたので、健康には注意していこうと思っています。何事も継続していくことは難しいですが、これから暖かくなります。動きやすくなると思いますので、決めたことや、活動してみる一歩の歩み、共に頑張りましょう。

春のお彼岸のお参り

3月20日(金)
14時～

今年も正信偈お参り
終了後 住職法話

春分の日をはさんだ7日間は、春のお彼岸の期間となります。彼岸会ともいいます。亡き人に、佛様の世界・教えに遭う御縁です。一緒にお参りしてみましょう。今年も御参加の方には、本山より発刊されました、

「生きることを始めるための遺言ノート」
をプレゼント!

終了後は自由退席となっております。お茶・おやつもご用意します。お気軽にご参加下さい。

住職の独り言 お墓・お仏壇じまい、移設

変わるけど、変えないもの

昨年はお墓・お仏壇のじまい、移設で、よく能登のほうにお参りに行きました。能登の震災から2年が経ち、影響があった方々の家や環境が少し整ってきたタイミングで、これからのお墓やお仏壇のあり方を家族で考えての決断でした。今までと環境が変わり、これまでの形とは変わったけれども、ひとつの区切りであり、スタートでもある。ご苦勞も本当にあったと思いますが、ご子息も引き連れ、安堵の表情でお参りされている姿から、復興への確かな歩みを感じました。



お仏壇じまいをするけれども、その中であつたご本尊(仏像)を床の間に置いてお参りされる方、新しいお墓を建てる方、少し形を変えて合祀のお墓や納骨堂にお骨を収める方、さまざまです。今まで守ってきたものと形が変わったことで、どこかおろそかにしたような気持ちになったり、何か足りていないと思ってしまうかもしれません。「ごめんね」と涙される方もいらっしゃいました。環境が変わり、お守りする形が変わるのは仕方のないことです。しかしながら、変わる

けれども、変えないもの、守っていくものはあります。これからのことを考え、お墓やお仏壇の今後のことを検討されている方もいらっしゃると思いますので、あらためて記したいと思います。

「……亡き人を偲びつつ、

如来(阿弥陀如来、佛)のみおしえに

遇いたてまつる……」

これは法事などのお参りの時に拝読する表白(ひょうびやく)の一文です。私は、このお心がすべてかなと思います。

お参りする時は、亡き人が御縁となることが多いですが、その亡き人はもう佛様の世界にいますから、残った者に嘆き悲しむ毎日を送ってほしいわけはありません。きつと、日々を大切に、元気に過ごしてほしいと望んでいます。

だからこそ、私たちにかけられたその願いを受け止めながら、佛様の大きな教えを聞き、日々の生活において見落としがちなもの、大切なものを確かなものにしていく。これが変えないもの、守っていくものだと思います。

どうしても、悪いことが続くと、何がいけないのかと、祟りや迷信で動揺してしまうのが

人間ではありませんが、私たちが今ご縁をいただいている浄土真宗の佛様、阿弥陀如来様は、きつと「信じて、南無阿弥陀仏と申せ。大丈夫、迷わず、自分の縁をしっかりと生きろ」と不安がる必要はないとおっしゃってくださいています。

お参りする意味合いも、亡き人の成仏を祈る追善供養ではありません。

仏徳讃嘆(ぶつとくさんだん)

報恩感謝(ほうおんかんしゃ)

意味は、阿弥陀如来の恩徳を讃え、その世界に導いてくださった亡き人々(諸仏)を讃え、感謝のお参りをしていくことです。ここをぶらさずに、心の軸に置いてお参りすること、これが「……亡き人を偲びつつ、如来のみおしえに遇いたてまつる……」だと思います。

お仏壇じまいをされた方で、「仏壇がお家になくなったので、これからは命日に、お寺にお参りに行きま



す。」とおっしゃった方がいました。形は変わっても、できることはあります。お墓、お仏壇が大きい、立派ということは、一切関係はありません。

あなたにとって、変えないもの、守っていくものはどのようなものでしょうか。誰もがいつかはお参りされる側になります。あなたは何を残していったら、ご家族に何を守ってほしいのでしょうか。

最初にご紹介した表白の最後は、

「……如来大悲の恩徳をあおぎ、師主知識(お釈迦さまや、佛様の教えに出会わせてもらった方々)の遺徳をよろこび、つづきみて報恩の大道にいそしまん」。

私が好きな冊子

『なき人をしのんで』には

「南無阿弥陀仏とお念仏申す心の上に、亡き人は阿弥陀如来と一つになって、私たちに環相(還りきて)ください、言葉なき言葉をもって、残れる私たちの生きゆく道を教え示しておられるようでありませう」



このように締めくくられています。

時代、環境の変化で今までの形が変わることとはあります。そんな時は、今までの振り返りながら、変わるけれども、変えないもの、守っていくものについて、ぜひ考えてみてください。(住職)

